

	ゼミナール名	ゼミナール I (経営学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	石川 雅敏 (いしかわ まさはる)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	企業の経営戦略を事例研究する。 同一産業分野の2つ以上の会社の経営を比較し、業績の差の原因を考える。
ゼミの到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 地域企業が外部環境の変化にどのような戦略で対応しているかが理解できる。
ゼミの概要	研究対象とする企業または産業を1つ選択し、外部環境の変化との関係性に特に注目して調査研究を行う。
授業時間外の学習	1) 経営戦略に関する基礎的知識の学習 2) 企業の経営情報の収集および解析
履修条件	研究対象としたい企業、産業を具体的に持っており、その理由が説明できること。 3年間研究し、4年次に研究発表を原則として行うこと。
テキスト	特にありません。
参考文献・資料	特にありません。
成績評価の方法	授業における優れた意見の発出 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週水曜日・金曜日 13:00~15:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	企業を研究調査して、自分の就職活動に活かしましょう。

授業計画			
第1回	イントロダクション 研究倫理教育:研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	企業調査、
第2回	研究対象企業の候補探し	第18回	企業調査
第3回	研究対象企業の候補探し	第19回	企業調査
第4回	研究対象企業の候補探し	第20回	企業調査
第5回	候補企業の概要調査	第21回	企業調査
第6回	候補企業の概要調査	第22回	企業調査
第7回	候補企業の概要調査	第23回	企業調査
第8回	研究企業の選択	第24回	企業調査
第9回	研究企業の選択	第25回	企業調査
第10回	研究企業の選択	第26回	企業調査
第11回	企業調査	第27回	企業調査
第12回	企業調査	第28回	企業調査
第13回	企業調査	第29回	企業調査
第14回	企業調査	第30回	企業調査
第15回	企業調査	第31回	研究発表
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (行動科学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	市原 光匡		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	教育学やその基礎となる行動科学の研究手法に触れ、研究の素地を養うとともに、その手法を用いて課題研究を行う。
ゼミの到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学やその基盤としての行動学の研究枠組みを理解し、説明ができる。</li> <li>2. 個々の能力や適性、興味関心をもとに研究テーマを設定し、それにしたがって研究を行うことができる。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>前期では、まず教育学に関するテキストを読み、教育学の対象と方法を理解するとともに、教育学研究に貢献する行動科学の基礎をふまえる。そのうえで、それぞれの関心をもとに学生自ら今後取り組む研究テーマを検討する。</p> <p>後期は、前期の学習をふまえ、それぞれ課題を設定し、個人またはグループで課題に取り組む。</p>
授業時間外の学習	現代の社会問題に関心を向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい(1.5時間程度)。また復習として、授業で取りあげる研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと(1.5時間程度)。
履修条件	<p>特に設けない。ただし、下記の要件を満たさなかった場合、特別の事情のあるものを除き単位の修得を認めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度中に「地域フィールドワーク」「教育学入門」のいずれかを修得すること(または修得済みであること)</li> </ul> <p><b><u>なお、履修を希望するものは、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得ること。履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認めない。</u></b></p>
テキスト	小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会、2012。 岡崎友典・永井聖二〔編著〕『教育学入門－教育を科学するとは－』放送大学教育振興会、2015。
参考文献・資料	必要に応じて適宜指示する。
成績評価の方法	ゼミナール内での発表・報告 40%、平常点 40%、期末試験 20%の割合で評価を行う。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日 9:00～10:30・金曜日 13:00～14:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>学生の参加によって成り立つ授業である。時間と手間はかかるが、興味関心をもって積極的に参加すれば、他の授業では得られない発見や体験もできる。したがってゼミナールの活動には積極的に参加すること。また各回意見交換の機会を設けるので、ゼミナール内でのコミュニケーションを深め、他者と協働しながら学習をすすめていくこと。</p> <p>なお、やむをえない事情により欠席・遅刻する際にはその都度連絡すること。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス・研究倫理教育（研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について）	第17回	後期ガイダンス・計画実施状況の確認
第2回	文献講読①（教育学と近接の研究領域）	第18回	参考文献の報告会①（第1グループ）
第3回	文献講読②（教育学の研究対象と研究分野・研究方法）	第19回	参考文献の報告会②（第2グループ）
第4回	文献講読③（学習行動・学習者理解のための心理学研究（1））	第20回	参考文献の報告会③（第3グループ）
第5回	文献講読④（学習行動・学習者理解のための心理学研究（2））	第21回	文献講読⑪（学校の組織と文化）
第6回	問題意識の明確化	第22回	中間報告会（第1グループ）
第7回	研究テーマの設定	第23回	中間報告会（第2グループ）
第8回	研究テーマの報告・グルーピング	第24回	中間報告会（第3グループ）
第9回	文献講読⑤（学習行動・学習者理解のための社会学研究（1））	第25回	文献講読⑫（教育内容と教育方法）
第10回	文献講読⑥（学習行動・学習者理解のための社会学研究（2））	第26回	文献講読⑬（転換期における教育）
第11回	文献講読⑦（教育学の系譜（1））	第27回	文献講読⑭（教育の構造と機能）
第12回	文献講読⑧（教育学の系譜（2））	第28回	文献講読⑮（教育の文化的基礎）
第13回	文献講読⑨（近代社会の成立と学校）	第29回	最終報告会（第1グループ）
第14回	文献講読⑩（公教育制度の展開とゆらぎ）	第30回	最終報告会（第2グループ）
第15回	研究計画の策定	第31回	最終報告会（第3グループ）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (公共政策と国際協力ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	木原 隆司		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>国内では、<b>政府が策定する「公共政策」</b>が本当に効果のあるものなのかの議論が尽きず、EBPM(証拠に基づく政策策定)が強く訴えられています。またSDGs(持続可能な開発目標)等、国際的に協力して解決すべき課題が山積している今日、「<b>国際的な制度・政策調整</b>」(国際公共政策)や「<b>開発途上国への協力・支援</b>」(開発協力)の重要性が増してきています。</p> <p>本ゼミでは、担当教員の行政・国際交渉経験をも踏まえ、テキストや国際機関等の資料の「<b>輪読</b>」、<b>文献調査</b>、<b>現地調査等</b>により、公共政策や開発途上国・援助政策等に関する理論と実態を学び、<b>開発協力を含む公共政策の在り方</b>について検討していく予定です。</p>
ゼミの到達目標	<p>このゼミの目標は、公共政策や開発途上国・援助政策に関する基礎的な理論と実態を学ぶことにより、論理と実証に裏付けられた公共政策の策定や国際協力に参画できるような基礎的な知識と能力を涵養し、「<b>協調できる強靱な社会人・国際人</b>」となる<b>素養を身に付ける</b>ことにあります。そのため、2年次のゼミでは、開発協力などの公共政策を分析するための<b>経済学の知識と分析手法の基礎</b>をしっかりと身につけます。(特に、「<b>読解力</b>」、「<b>論理構成力</b>」、「<b>プレゼン(表現)力</b>」、「<b>数値計算力</b>」、「<b>英語力</b>」を涵養します)</p>
ゼミの概要	<p>公共政策・国際協力の研究をする「<b>縁(よすが)</b>」として「<b>開発経済学</b>」の<b>基礎</b>(グループで担当章の概要をPPTで作成し発表)と<b>分析手法</b>(経済数学と計量分析)を学びます。また、「<b>経済英語</b>」に慣れるように、英語文献(Jeffery Sachs(2015) <i>The Age of Sustainable Development</i> 等)を読んでいます。</p>
授業時間外の学習	<p>「<b>公共政策の現場</b>」を訪問します(「<b>秋田南税務署</b>」等) (「<b>計算力</b>」や「<b>英語力</b>」強化のための「<b>ゼミ合宿</b>」の実施も検討します)</p>
履修条件	<p>「<b>協調できる強靱な社会人・国際人</b>」を目指して、<b>ゼミ活動に「真面目」に取り組む学生</b>(真面目に取り組めない人は遠慮してください)</p>
テキスト	<p>黒崎卓・栗田匡相(2016)『ストーリーで学ぶ開発経済学』有斐閣</p>
参考文献・資料	<p>西村晃(2012)『これから経済学をまなぶ人のための数学基礎レッスン』日本経済評論社 山本拓・竹内明香(2024)『入門 計量経済学 第2版』新世社</p>
成績評価の方法	<p>ゼミにおける取組・発表内容・プレゼン等を総合的に判断します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>毎週火曜日・木曜日 10:40~12:10 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	<p>秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>担当教員は、財務省・外務省・経済企画庁等の中央官庁の参事官・部長・課長等、米州開発銀行(IDB)・アジア開発銀行(ADB)国際機関職員やWTO(世界貿易機関)担当の一等書記官などの職務を通じて、長崎大学・九州大学・獨協大学の教授として、<b>経済学を政策に役立て</b>、<b>学生が経済学を武器に「協調できる強靱な国際人</b>」となるよう努めてきました。皆さんも、<b>経済学や公共政策の知識を仕事や世の中の分析に役立てられるCoolな(カッコいい)社会人・国際人</b>になりませんか?</p>

授業計画			
第1回	前期ガイダンス・班分けと「研究倫理教育」	第17回	後期ガイダンス
第2回	テキスト輪読とプレゼン（プロローグ）	第18回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（1）
第3回	テキスト輪読とプレゼン（第1章）＋「数学基礎」	第19回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（2）
第4回	テキスト輪読とプレゼン（第2章）＋「数学基礎」	第20回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（3）
第5回	テキスト輪読とプレゼン（第3章）＋「数学基礎」	第21回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（4）
第6回	テキスト輪読とプレゼン（第4章）＋「数学基礎」	第22回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（5）
第7回	テキスト輪読とプレゼン（第5章）＋「数学基礎」	第23回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（6）
第8回	テキスト輪読とプレゼン（第6章）＋「数学基礎」	第24回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（7）
第9回	テキスト輪読とプレゼン（第7章）＋「数学基礎」	第25回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（8）
第10回	テキスト輪読とプレゼン（第8章）＋「数学基礎」	第26回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（9）
第11回	テキスト輪読とプレゼン（第9章）＋「数学基礎」	第27回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（10）
第12回	テキスト輪読とプレゼン（補論1、2）＋「数学基礎」	第28回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（11）
第13回	『数学基礎レッスン』の残り（1）	第29回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（12）
第14回	『数学基礎レッスン』の残り（2）	第30回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（13）
第15回	『数学基礎レッスン』の残り（3）	第31回	英語文献輪読とプレゼン（Sachs）（14）
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (社会政策ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	木村 澄 (きむら きよし)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	人間の「人生の目的」とは何か？ その目的をどのような方法で達成するか？
ゼミの到達目標	<p>1. 人生100年時代の「幸せを創造する生き方」を考える。  幸福を決める3つの要因とは？ ①人は幸福度のうち50%が遺伝によって設定されている。②生活環境や状況による違いは10%程度。③幸福になるための40%は日々の意図的な行動にある。何かに没頭している状態を「フロー」という。幸福な人生はフローによって創られる。</p> <p>2. 人生100年時代に「新しい働き方」を考える。  ①自分が興味をいだける分野で「高度な専門技能」を習得すること、②「人間関係の資本」を育むこと、③消費に重きをおくのではなく、創造的に何かを生み出し、「質の高い経験」を大切にすること。  創造性とイノベーションを発揮してこそ、人間は労働に意義を見いだすことができる。  そのような新しい生き方を理解したうえで、ゼミ研究活動を進める。そして、その成果をみなさんの職業生活と人生において生かせるようにすることを目標とする。</p>
ゼミの概要	これからの職業生活を核とする人生の中で、いかにして「持続的幸福感」を得るか。その方法を歴史沿革的、法的、政策的、社会学的、心理学的などのさまざまな学問分野を通して考察する。
授業時間外の学習	興味ある研究テーマを考え、関連する研究資料を収集し読み込む。
履修条件	特にありません。
テキスト	ゼミナールの時間に必要に応じて資料を配付します。
参考文献・資料	ゼミナール内で指示します。
成績評価の方法	<p>【研究活動(40%)、前期試験(15%)、後期試験(15%)、参加状況(報告・質疑応答など:30%)】  上記評価項目を基にして総合的に判断します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>・演習中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>・授業の理解および予習・復習が充分であることを確認するため、小テストを行うことがあります。</li> <li>・レポート課題を課す場合は、授業内または掲示板(ポータルサイト含む)で指示をします。</li> </ul> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	毎週火曜日3時間目(13:00~14:30)・木曜日3時間目(13:00~14:30) ※これ以外の時間帯でも可能な限り対応します。
成績評価基準	秀(90~100点)、優(80~89点)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(0~59点)
学生へのメッセージ	皆さんの将来の職業生活や人生をとおして必ず役に立ちます。 「わかる・できるようになる」を大切にしましょう。 できるだけ「楽しく」を目指します。食事会(焼肉)で交流を図りましょう!

授業計画			
第1回	前期オリエンテーション	第17回	「研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について」後期オリエンテーション
第2回	悪について：人間は狼か羊か	第18回	「VIA 強み診断テスト」
第3回	ネクロフィリア、ナルシズム、近親相姦的固着	第19回	WELL-BEING 理論：持続的幸福感
第4回	人間の本性とは	第20回	①ポジティブ感情、②エンゲージメント、③意味・意義、④達成、⑤関係性
第5回	愛について：対人間的合一	第21回	フロー理論：生きるとは
第6回	愛する能力の特性	第22回	仕事に就いての矛盾
第7回	人間はなぜ罪を犯すのか	第23回	幸福を決める3つの要因
第8回	生来犯罪人説、アノミー理論①、社会解体理論	第24回	「オックスフォード幸福度調査」
第9回	文化葛藤理論、分化的接触理論、アノミー理論②	第25回	3ステージの人生からマルチステージの人生へ
第10回	非行サブカルチャー理論、分化的接触構造理論	第26回	時間という贈り物、無形資産の形成
第11回	非行漂流理論、ラベリング理論、ボンド理論	第27回	働き方のシフト：未来を形成する要因
第12回	幸せの公式：ずっと幸せでいるために必要なこと	第28回	①ジェネラリストから連続スペシャリストへ
第13回	幸福のサーモスタット、快樂の踏み車	第29回	②孤独な競争から協力して起こすイノベーション
第14回	お金で幸せは買えない	第30回	③大量消費から情熱を傾けられる経験へ
第15回	長続きする幸せをもたらす自発的要因	第31回	より良い未来を築くには
第16回	中間試験	第32回	期末試験

	ゼミナール名	ゼミナール I		
	ゼミ担当者名	日下 和人		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	前期：太刀川英輔『進化思考』の第2章を読む。 伊藤 潤編『進化思考批判集』の第I部を読む。 後期：判断推理の過去問を解く。(参加者と相談の上で変更することがあります。)
ゼミの到達目標	質を問わずに、アイデアを量産できるようになること。
ゼミの概要	『進化思考』の方法を一つずつ紹介しますから、自分で実践例を作ってください。
授業時間外の学習	紹介された思考方法を試せる物・場所・現象がないか、一週間の間、探し続けてください。
履修条件	①初回ゼミ(4月10日)の前半か後半かに参加していること ②役割や時間を与えられれば人前で話せる人
テキスト	前掲の2冊をういりますが、第3講までは購入はしないでください。
参考文献・資料	特にありません。
成績評価の方法	以下の(1)(2)(3)のうち、最も高い得点を成績とする。定期試験は必ず受験してください。 (1) 定期試験の成績 100% (2) 定期試験の成績 10% ゼミへの参加状況(発表など) 90% (3) 個性の到達度 100% (進化思考と接して自分らしさを実現した度合い)  ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 13:00~17:10 金曜日 13:00~17:10
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	発言はしなくてよいので、発表はできるようになってください。

授業計画			
第1回	ガイダンス、研究倫理教育	第17回	後期の方針に関して打ち合わせ
第2回	趣旨説明 極端な量を想像する具体例	第18回	(暫定) 判断推理 順序関係
第3回	極端な量を想像する訓練	第19回	判断推理 位置関係
第4回	欲しい状況をまねる訓練	第20回	判断推理 対応関係
第5回	標準装備を減らす訓練	第21回	判断推理 リーグ戦
第6回	常識よりも増やす訓練	第22回	判断推理 何のために表を作るのか。
第7回	新しい場所を探す訓練	第23回	判断推理 命題と論理
第8回	違う物に入れ替える訓練	第24回	判断推理 何のために図を描くのか。
第9回	別々の要素に分ける訓練	第25回	判断推理 展開図
第10回	真逆の状況を考える訓練	第26回	判断推理 立体の切断
第11回	意外な物と組み合わせる訓練	第27回	判断推理 空間把握は分ける訓練だろうか。
第12回	肯定的検討 (極論を作る訓練)	第28回	判断推理 問題構造分析
第13回	批判的検討 (極論を作る訓練)	第29回	判断推理 作問実習
第14回	吟味 (極論も含めて飽きる状態)	第30回	判断推理 解き合い
第15回	我流の形成	第31回	判断推理 適応 (選択) の思考と言えるか。
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I		
	ゼミ担当者名	國井法夫		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	2年生は全員、日本商工会議所簿記3級を取得していただきます。
ゼミの到達目標	日商簿記3級、この目標に到達した学生は2級取得を目指していただきます。
ゼミの概要	簿記の問題演習、後期には秋田県人材育成事業の発表
授業時間外の学習	各自、問題演習並びにわからないところは研究室に聞きに来る。
履修条件	学生便覧に掲載されているルールが守れる学生。
テキスト	各自に指示する。
参考文献・資料	必要に応じて紹介する。
成績評価の方法	<p>授業への参加状況(報告、質疑応答など:30%)・学習態度(30%)・成績(40%)等で総合評価します。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	水曜日 4時間目
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	まじめに目標に向けて努力できる学生を希望します。

授業計画			
第1回	研究倫理教育 簿記の意味・目的・種類	第17回	売掛金と買掛金(2) 買掛金とは その処理
第2回	簿記の基礎概念(1) 資産・負債・資本について	第18回	その他の債権と債務(1) 貸付金・手形貸付金等の処理
第3回	簿記の基礎概念(2) 費用と収益について	第19回	その他の債権と債務(2) 未収金・未払金等の処理
第4回	取引と勘定と仕訳(1) 経済取引を仕訳にする	第20回	手形(1) 手形とは
第5回	取引と勘定と仕訳(2) 経済取引を仕訳にする	第21回	手形(2) 手形の処理方法
第6回	帳簿の記入 帳簿への記入方法	第22回	有価証券・固定資産
第7回	決算と財務諸表(1) 貸借対照表について	第23回	減価償却 減価償却とは その処理方法
第8回	決算と財務諸表(2) 損益計算表について	第24回	資本金と引出金 処理方法について
第9回	現金預金取引(1) 現金等の処理	第25回	試算表の作成 仕訳から総勘定元帳への転記の確認
第10回	確認小テスト	第26回	税金、帳簿と伝票 3伝票制の処理について
第11回	現金預金取引(2) 当座預金の処理	第27回	決算と財務諸表 決算手続きについて
第12回	現金預金取引(3) 当座預金の期末での処理	第28回	決算と財務諸表 売上原価の計算とその処理について
第13回	商品売買(1) 分記法	第29回	決算と財務諸表 費用収益の繰延べと見越し等
第14回	商品売買(2) 3分法について	第30回	精算表等の作成
第15回	売掛金と買掛金(1) 売掛金とは その処理	第31回	
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (安全保障論ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	佐藤 克枝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	安全保障について学び、基本的な問題点を発見する。
ゼミの到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 国家の成立要件（住民・領土・政府・外交能力）を理解している。</li> <li>2 領域及び日本の領土問題の概要を理解している。</li> <li>3 防衛政策の基本（専守防衛）、日米安全保障体制が説明できる。</li> <li>4 国家安全保障戦略、事態対処法制、平和安全法制の概要を理解している。</li> <li>5 国連の集団安全保障体制と集団的自衛権の差異を理解している。</li> <li>6 武力攻撃事態への対処のための法律の概要を理解している。</li> <li>7 国民保護についての国や自治体の取り組みについて理解している。</li> <li>8 安全保障に関し、選択したテーマについて意見を述べるができる。</li> </ol>
ゼミの概要	<p>日本の安全保障について 国際環境と国内政治がどのようにかかわってきたのかにも着目しつつ学んでいきます。</p> <p>世界の各国は独自の安全保障政策や、安全保障組織により、自国の主権と独立を確保しています。現在の国際情勢、とりわけ軍事情勢は厳しい状況にあります。そのような中で、各国はそれぞれの防衛努力により、周辺諸国と連携するとともに、国連の集団的安全保障体制の下で平和と安全を維持しているところです。</p> <p>前半は現在の平和安全保障体制の下で日本がどのような安全保障政策をとっているのか、国連の集団安全保障体制、日米及び関係各国との安全保障体制についても解説していきます。後半は、各自が興味を持ったテーマについて報告を行い、安全保障についてさらに理解を深めていきます。</p>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の安全保障政策に関するニュースに関心を持つこと。</li> <li>・国際的な軍事情勢、国際テロ、日本周辺の情勢に関心を持ち、国連や当事国の対処状況に関心を持つこと。</li> <li>・毎回のゼミのはじめに、国際関係や安全保障に関するトピックスを発表できるよう準備すること。</li> </ul> <p>(予習 2 時間程度、復習 1 時間程度)</p>
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次の①～④の条件をすべて満たすこと。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学生生活入門 I・II、または総合科目 I・II の単位を修得済みであること。</li> <li>② 安全保障論概論、統治機構、民法総則、行政学 I、公共政策論、地域政策論、社会調査の仕方、国際研究入門、防災学概論、観光法規、観光社会学、世界政治学 I、世界政治学 II、時事経済入門のうち少なくとも 2 科目の単位を修得済みであること。</li> <li>③ 第 1 回の前半または後半に出席し、安全保障に関する関心事項についてのペーパーを提出すること（フォーマットは第 1 回ゼミナール時に配布する。）。</li> <li>④ 履修登録にあたっては、第 1 回ゼミナール時に担当教員と面接の上、登録許可を得ること。</li> </ol> </li> <li>2 国際関係論、安全政策論、防衛政策、現代政治論を同時履修することが望ましい。</li> <li>3 ゼミナールは討議により進めるので、時間中に発言のない場合は出席と認めないことがある。</li> </ol>
テキスト	授業中に指示する。

参考文献・資料	防衛白書（令和5年版）、外交青書（令和5年版）、田村重信等『日本の防衛法制』（内外出版）、同『日本の防衛政策』（内外出版）、森本敏『日本の安全保障』（実務教育出版）、武田康裕『安全保障のポイントがよくわかる本』（亜紀書房）、西原正『わかる平和安全法制』（朝日新聞社）、武田康裕ほか『新訂第5版 安全保障学入門』（亜紀書房）、渡邊隆『平和のための安全保障論 軍事力の役割と限界を知る』（かもがわ出版）、田村重信・さとう正久編著『教科書 日本の防衛政策』芙蓉書房出版、松本利秋『逆さ地図で解き明かす新世界情勢』（ウエッジ）
成績評価の方法	授業への参加状況（報告・質疑応答など）50%、ゼミレポート及びプレゼンテーション50% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日 14：40～16：10 水曜日 14：40～16：10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>国際関係や国家としての安全保障のあり方、国民保護等に興味のある学生の積極的な参加を期待しています。</p> <p>学生の関心が定まり、後期のはじめからレポート作成と研究発表に着手することができるようにするため、前期はこれまで体系的に学んだことがない学生もいることを前提にゼミナールを進めます。</p> <p>後期には、実際に安全保障に携わる防衛省及び国民保護計画策定の中心となる自治体の関係者をゲストスピーカーとして招聘して特別講義をして頂き、安全保障について、さらに理解を深めてもらう予定です。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス (研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について) 安全保障の意義	第17回	学生による発表① 討議
第2回	国家の成立要件、領域	第18回	学生による発表② 討議
第3回	領土・領海・領空	第19回	トピック・まとめ
第4回	防衛政策の基本①	第20回	学生による発表③ 討議
第5回	防衛政策の基本②	第21回	学生による発表④ 討議
第6回	防衛政策の方針	第22回	トピック・まとめ
第7回	政策決定機関	第23回	学生による発表⑤ 討議
第8回	治安維持と防衛の差異	第24回	学生による発表⑥ 討議
第9回	緊急事態対処時の行動及び権限	第25回	トピックまとめ
第10回	武力攻撃事態における法体系	第26回	学科発表会に向けてのプレゼン準備①
第11回	国民保護の在り方	第27回	学科発表会に向けてのプレゼン準備②
第12回	国際連合の主要機関及び役割	第28回	学科発表会に向けてのプレゼン準備③
第13回	国際司法裁判所	第29回	特別講義① (ゲストスピーカー)
第14回	国際平和協力活動の概要	第30回	特別講義② (ゲストスピーカー)
第15回	地域的安全保障体制の概要	第31回	全体のまとめ①
第16回	前期のまとめ	第32回	全体のまとめ②

	ゼミナール名	ゼミナール I (心理学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	瀬戸 泰		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>同じ経験をして、「楽しい」と感じたり「つまらない」と感じたり、人によって感じ方が異なるのはなぜでしょうか。また、幼い頃の親子関係や成育歴はどのように心に影響を及ぼすのでしょうか。このように、心理学は私たちの生活と密接に結びついている「心」と「行動」の働きや法則性を検証していく学問です。本ゼミナールでは、心理学に関する代表的な理論や考え方を一通り学び、心理学の全体像について理解することをテーマにします。</p>
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理学の全体像を理解し、それらを通して自らの心や社会的な現象に対する洞察が行えること</li> <li>他者への気配りや思いやりの心と行動を育むこと</li> </ul>
ゼミの概要	<p>基本的に毎回、異なる心理学のテーマについて講義や文献講読を通じて理論的な内容を学んだうえで、意見交換やグループワーク、事例検討等を行いたいと思います。また、適宜テーマを決めて発表の機会を設ける場合があります。</p>
授業時間外の学習	<p>学んだことを、日常生活の中で意識的に当てはめ、考察・活用できるよう努めてください。</p>
履修条件	<p>2年生のゼミは、心理学を基礎から学んでいく構成であるため、履修条件は特にありません(心理学に興味があり、ルールを守れる方なら知識が全く無くても問題ありません)。 *心理学は「占いやゲーム」のようなものではありませんので、「思っていたものと違う…」とならないよう、その点を予めご理解ください。また、心理学に興味がない(少ない)場合はゼミ参加が苦痛になると考えられますので、自身の興味関心を基準に受講を検討してください。</p>
テキスト	<p>毎回、講義用レジュメやテキストの写しを配布します。</p>
参考文献・資料	<p>必要に応じて、授業中に適宜お知らせします。</p>
成績評価の方法	<p>授業平常点(コメントシート・授業態度等)60%、定期試験(レポート等)40% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>月曜日もしくは火曜日の10:30～12:00 ※上記以外の時間帯でも、研究室に在室中であればお声がけください。 E-mail : seto@nau.ac.jp</p>
成績評価基準	<p>秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p>
学生へのメッセージ	<p>現代は「心の時代」とも言われるように、悩みやストレスをどう和らげていくか、また、ビジネスや行政に心理学をどう活かしていくかなど「心理学 × 様々な領域」に対する注目が集まっています。また、学んだ知識は自身の心のケアや対人面に活かしていけるかもしれません。身近だけれども幅広く奥深い「心理学の世界」を一緒に冒険してみませんか。</p>

授業計画			
第1回	イントロダクション (ゼミの進め方、研究倫理)	第17回	自己分析の実践
第2回	心理学の概要 (心理学とは、様々な心理学)	第18回	心理療法を学ぶ① (来談者中心療法)
第3回	深層心理学	第19回	心理療法を学ぶ② (行動療法、森田療法)
第4回	行動主義心理学	第20回	心理療法を学ぶ③ (精神分析、交流分析)
第5回	感覚・知覚・認知心理学	第21回	心理療法を学ぶ④ (認知療法、認知行動療法)
第6回	健康心理学①	第22回	心理療法を学ぶ⑤ (家族療法、ブリーフセラピー)
第7回	健康心理学②	第23回	アセスメント
第8回	パーソナリティ心理学	第24回	代表的な精神疾患①
第9回	投影法の実践	第25回	代表的な精神疾患②
第10回	社会心理学	第26回	代表的な精神疾患③
第11回	発達心理学	第27回	ケース検討・ディスカッション (いじめの事例)
第12回	教育・学校心理学	第28回	ケース検討・ディスカッション (不登校の事例)
第13回	自己開示とコミュニケーション	第29回	ケース検討・ディスカッション (大学生の事例)
第14回	思考実験に関するグループワーク	第30回	ケース検討・ディスカッション (社会人の事例)
第15回	前半のまとめ	第31回	全体のまとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (感性データサイエンス)		
	ゼミ担当者名	津谷 篤		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	感性工学でよく用いられる解析手法を用いて対象としたものの解析を行い、その結果を世の中に役立てる方法を提案する。
ゼミの到達目標	データサイエンスの中でも主に感性工学で用いられる解析手法（主成分分析、対応分析、ネットワーク分析、テキストマイニングなど）を用い、様々な物事のイメージや性質を定量評価できるようになる。そしてその結果の応用法を提案できるようになる。
ゼミの概要	<p>感性工学は、人間の感性という説明しにくいものをアンケートや多変量解析などを用いて数値化し、それをものづくりやマーケティングに活かす学問とも言える「理系と文系の融合領域」です。感性工学でよく用いられる手法を用い、ファッション、音楽、マンガ、アニメ、ゲーム、映画、観光、食品など、様々なものを解析してみましょう。そしてその結果を世の中への貢献に役立たせる方法を考えましょう。（とはいうものの学問で普通に研究対象となるものにも使用可）。</p> <p>1年間の間に次のような流れを解析方法を変えて何回か繰り返します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 解析のPCでの計算方法を教わる</li> <li>2. サンプルデータで解析してみる</li> <li>3. その解析法が用いられた研究の調査</li> <li>4. 各々選んだ研究対象に対してその解析を行ってみる</li> <li>5. 解析結果とその解釈、その役立たせ方をゼミメンバーに紹介する</li> </ol> <p>2年生時、3年生時では基本同じような繰り返しで行っていきます。つまり2年間続けてゼミに参加した場合、より多くの解析を行ったこととなります。4年生時にはこれまで行った解析結果の中で良かった内容を卒業研究テーマとして選択すればいいでしょう。（今年度は4年生向けのゼミは開講しません）。いくつか良い結果が出たならぜひ学会発表に挑戦してみましょう。</p>
授業時間外の学習	<p>普段から研究テーマさがしをしてほしいです。</p> <p>解析結果の紹介時にはスライドなどの資料を作成してもらいます。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートパソコンを持参する</li> <li>・「データサイエンス基礎」「ビッグデータとAI」を受講することが好ましい</li> </ul>
テキスト	じっくり学びたい解析法に出会ったときはその都度参考にできるものを紹介します。
参考文献・資料	こちらで資料を用意します。
成績評価の方法	<p>定期試験(20%),ゼミ活動への参加状況(30%),ゼミ内・学内・学外での発表状況(50%) (学会発表高得点)</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	金曜日 13:00~17:10    tsuya@nau.ac.jp にご連絡いただけると他の日時も対応可能です。
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	感性工学は普通の理系学生や普通の文系学生がたどり着けないいわば「文系であることを活かしたデータサイエンス」であるといえます。その学びを得て、就職活動などを行う際に「私は文系の大学でデータサイエンスの研究を行っていました。」と堂々と言えるようになります。

授業計画			
第1回	研究倫理教育と感性工学研究の紹介	第17回	QGIS を実データに対して使ってみる
第2回	対応分析のやり方の説明	第18回	テキストマイニングのやり方の説明
第3回	サンプルに対して対応分析を行ってみる	第19回	サンプルに対してテキストマイニングを行う
第4回	対応分析が用いられた研究の調査①	第20回	テキストマイニングが用いられた研究の調査①
第5回	対応分析が用いられた研究の調査②	第21回	テキストマイニングが用いられた研究の調査②
第6回	対応分析が用いられた研究の調査③	第22回	テキストマイニングが用いられた研究の調査③
第7回	各々選んだ研究対象に対し対応分析してみる	第23回	各々選んだ研究対象に対しテキストマイニング
第8回	対応分析結果の解釈および応用法をゼミ内で発表	第24回	テキストマイニング結果の解釈および応用法発表
第9回	ネットワーク分析のやり方の説明	第25回	主成分分析のやり方の説明
第10回	サンプルに対してネットワーク分析を行ってみる	第26回	サンプルに対して主成分分析を行ってみる
第11回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査①	第27回	主成分分析が用いられた研究の調査①
第12回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査②	第28回	主成分分析が用いられた研究の調査②
第13回	ネットワーク分析が用いられた研究の調査③	第29回	主成分分析が用いられた研究の調査③
第14回	各々選んだ研究対象に対しネットワーク分析	第30回	各々選んだ研究対象に対し主成分分析してみる
第15回	ネットワーク分析結果の解釈および応用法を発表	第31回	主成分分析結果の解釈および応用法をゼミ内発表
第16回	地理情報システムソフト QGIS の使い方の説明	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ【行政学・政治学・公共政策論・地方自治論】		
	ゼミ担当者名	寺迫 剛		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input checked="" type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	<p>そもそも行政や政治とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」(片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部)であることを、本ゼミナールを通じ認識し、行政(学)・政治(学)・公共政策(論)・地方自治(論)についての理解を深めること。ゼミナールⅠ,Ⅱ,Ⅲを通じて、段階的にゼミ論文を執筆、完成させましょう。</p>
ゼミの到達目標	<p>①行政(学)・政治(学)・公共政策(論)・地方自治(論)についての一般的知識を習得し、  ②ゼミ参加者各自が、各々のテーマを探求し、  ③他国の事例あるいは同国の他のテーマとの比較の視点を獲得することにより、各自がゼミ論文のテーマを見つけること。</p>
ゼミの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ テキスト・レジュメを輪読する形式とします。始めのうちは説明の比重が多いと思いますが、段階的にゼミ参加者との討議の割合を増やしていき、討議メインのゼミにしていきましょう。</li> <li>▶ 行政学および政治学の基礎知識を効率よく習得するため、いわゆる公務員試験対策教材を活用する場合があります。</li> </ul>
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 文部科学省の大学設置基準第21条に基づき事前学習(1.5時間)および事後学習(1.5時間)。</li> <li>▶ 世間、社会、世界に関心をもって過ごすことで、事前・事後学習時間に充当すること。</li> </ul>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 第1回(お試し)ゼミに、1年次の成績表を持参して出席すること。出席できない場合には、必ず、履修前に国家試験等センターへ個人面談に来てください。上限を超えれば選抜します。</li> <li>▶ 「行政学Ⅰ・Ⅱ」「比較政治学」「公共政策論」「地方創生論」「都市政策論」「国際研究入門」のシラバスを読んで、興味関心が湧くこと。</li> </ul>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ゼミ参加メンバーと調整して決定</li> </ul>
参考文献・資料	<p>『質的比較分析(QCA)』パトリック・A・メロ著、東伸一・横山斉理著(千倉書房、2023)  『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根(ミネルヴァ書房、2022)  『行政学[新版]』(曾我謙悟、有斐閣アルマ、2022)  『はじめての行政学[新版]』(伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔、有斐閣スタジオ、2022)  『行政学』西岡晋・廣川嘉裕編(文真堂、2021)  『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編(慈学社、2021)  『比較行政学入門』ザビーネ・クールマン、ヘルムート・ヴォルマン(成文堂、2021)  『議会制民主主義の揺らぎ』岩崎正洋編(勁草書房、2021)  『住民投票の全て』今井一編(『国民投票/住民投票』情報室、2021)  『日本型福祉国家再編の言説政治と官僚制』西岡晋(ナカニシヤ出版、2021)  『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann(Springer VS, 2020)  『Politics in Time- History, Institutions, and Social Analysis,』Paul Pierson(Princeton University Press, 2004)  『行政学[新版]』真淵勝(有斐閣、2020)  『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉(一藝社、2019)  『日本の地方政府』曾我謙悟(中公新書、2019)  『行政学講義』金井利之(ちくま新書、2018)  『ダイバーシティ時代の行政学』縣公一郎・藤井浩司編(成文堂、2016)  『行政学』原田久(法律文化社、2016)  『行政学[第2版]』外山公美編(弘文堂、2016)</p>

	『比較政治学入門』岩崎正洋（勁草書房、2015） 『政策過程の理論分析』岩崎正洋編（三和書籍、2012） 『雇用連帯社会』井手英策編（岩波書店、2011） 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2007） 『Politics in Time- History, Institutions, and Social Analysis』 Paul Pierson, (Princeton University Press, 2004) 『新制度論』B・ガイ・ピーターズ著（土屋光芳訳）（芦書房、2007） 『行政学〔新版〕』西尾勝（有斐閣、2001） 『国民と行政』片岡寛光（早稲田大学出版部、1990）
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ゼミでの積極的参加・貢献の度合い（65%）</li> <li>➤ レポートあるいは試験（35%）</li> </ul> ※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 4限および木曜日 4限
成績評価基準	秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
学生へのメッセージ	公務員を目指す人も、迷っている人も、むしろイヤな人も、誰もが楽しいゼミにしましょう、なぜなら、行政（学）や政治（学）が対象とするのは、私達みんなであり、一人一人がかけがえなく結びついていること、だからこそ共に暮らす社会もかけがえのないことを学び、ゼミ参加者から、このような社会を支える心意気のある若者が現れることを望みます。

授業計画			
第1回	オリエンテーション： 研究倫理教育（全学共通テーマ）	第17回	インターミッション：研究活動における不正行為・不適切行為の防止について（全学共通テーマ）
第2回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識① 秋田市「まちづくり」の岐路①	第18回	テーマ候補のプレゼンテーション①
第3回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識② 秋田市「まちづくり」の岐路②	第19回	テーマ候補のプレゼンテーション②
第4回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識③ 秋田市「まちづくり」の岐路③	第20回	テーマ候補のプレゼンテーション③
第5回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識④ 政党・議会政治と選挙①	第21回	テーマ候補のプレゼンテーション④
第6回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑤ 政党・議会政治と選挙②	第22回	プレゼンテーションを経たテーマの再検討①
第7回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑥ 政党・議会政治と選挙③	第23回	プレゼンテーションを経たテーマの再検討②
第8回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑦ 官僚制論・公務員制度論と「働き方」改革①	第24回	プレゼンテーションを経たテーマの再検討③
第9回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑧ 官僚制論・公務員制度論と「働き方」改革②	第25回	プレゼンテーションを経たテーマの再検討④
第10回	行政学・政治学・公共政策論の基礎知識⑨ 官僚制論・公務員制度論と「働き方」改革③	第26回	ゼミ論テーマ・進路選択等プレゼンテーション①
第11回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討①	第27回	ゼミ論テーマ・進路選択等プレゼンテーション②
第12回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討②	第28回	ゼミ論テーマ・進路選択等プレゼンテーション③
第13回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討③	第29回	ゼミ論テーマ・進路選択等プレゼンテーション④
第14回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討④	第30回	ゼミナールⅠのまとめとゼミナールⅡへの展望①
第15回	ゼミ参加者が取り組むテーマの検討⑤	第31回	ゼミナールⅠのまとめとゼミナールⅡへの展望②
第16回	定期試験あるいはゼミ論等テーマ報告の講評	第32回	定期試験あるいはゼミ論等テーマ報告の講評

	ゼミナール名	ゼミナール I (政治学・行政学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	中村逸春		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	社会とは何か？ 社会と個人との関係はどうあるべきか？ 私のゼミナールでは、こうした問いについて、政治学や行政学の文献を読み議論することを通じて、一緒に考えていければと思っています。
ゼミの到達目標	政治学の文献を読解する力と、他のゼミ生と議論する力を習得すること。 社会科学的な思考を身につけること。ゼミ論文を執筆するための能力を涵養すること。
ゼミの概要	<p>①前期から後期の途中までは、政治学・行政学について幅広く学ぶため、次の二冊をテキストとして読み進める予定です。</p> <p>(a) 宮本太郎『共生保障——〈支え合い〉の戦略』</p> <p>(b) 三浦まり『さらば、男性政治』(または、水島治郎『ポピュリズムとは何か——民主主義の敵か、改革の希望か』)</p> <p>ゼミは、毎回、指定箇所を事前に読んできて、当日は全員で議論するという形で進めます。あまり負担が重くならないように、少しずつ読み進めていくつもりですので、ご安心ください。また、テキストは一般読者向けの新書などですので、比較的読みやすいと思います。</p> <p>②後期の途中からは、個人研究に取り組んでもらう予定です。</p>
授業時間外の学習	テキストを読んで分からないことがあれば、図書館やウェブを通じて調べておくこと(2.0時間)。
履修条件	特にありません。なおガイダンスに出席できない場合は、事前に、7階の研究室に一度お越しくください。
テキスト	宮本太郎『共生保障——〈支え合い〉の戦略』岩波新書、2017年(840円)。 三浦まり『さらば、男性政治』岩波新書、2023年(980円)。
参考文献・資料	ゼミの際にその都度紹介します。
成績評価の方法	発言や報告などの取り組み姿勢(60%)、レポートまたは試験(40%)によって評価します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜 14:00~15:30
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p>(1) 例年、一人で参加される学生が多く、友達と一緒になくても気にならないゼミだと思います。</p> <p>(2) 日頃はあまり本を読まないけれど、大学に入ったのだから本を読んで他の学生と話し合ってみたいと思っている人には、特に向いているかもしれません。</p> <p>(3) 大人数にはならないと思いますので、5~6名ほどの少人数が好みの人にはお勧めです。</p> <p>(4) 公務員試験の勉強についても助言ができると思います。毎年合格者も出ています。</p> <p>(5) ゼミナール発表会は法学部のもので参加しますが、経済学部部の学生もちろん歓迎します。</p> <p>(6) ゼミについて確認しておきたい点などあれば、気軽に7階の研究室にお越しくください。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス	第17回	後期のゼミ活動についての説明、個別面談
第2回	研究倫理など	第18回	男性ばかりの政治——権力の座に女性はいない （『さらば、男性政治』を読み、話し合う）
第3回	個人面談、ゼミ内の役割分担	第19回	ジェンダー平等後進国が作り出した生きづらさ ——深刻化する女性の貧困（『さらば、男性政治』）
第4回	日本型生活保障と排除の構造 （『共生保障』を読み、話し合う）	第20回	映像視聴
第5回	「強い個人」の終焉——病気、障害、老い （『共生保障』）	第21回	女性を排除する日本の政治風土と選挙文化 ——飲み会を断らない女（『さらば、男性政治』）
第6回	共生保障の基本的な考え方—「支える側」を支え 直す、「支えられる側」の参加拡大（『共生保障』）	第22回	女性に待ち受ける困難——コロナ禍は女性リーダ ーのイメージを変えるか（『さらば、男性政治』）
第7回	公務員試験の説明など	第23回	個人研究についての説明、個人面談
第8回	地域における共生保障——藤里町社会保障協議 会、ふるさとの会、生活クラブ風の村（『共生保障』）	第24回	ミソジニーとどう闘うか——女性を罰する （『さらば、男性政治』）
第9回	ユニバーサル就労——就労、居住、所得保障 （『共生保障』）	第25回	なぜクォータが必要か——世界に広がるクォータ （『さらば、男性政治』）
第10回	新しい家族的コミュニティ、小さな福祉拠点 （『共生保障』）	第26回	ジェンダー平等で多様性のある政治に向けて—— 「女」であることの意味（『さらば、男性政治』）
第11回	SPIの説明、面談など	第27回	個人研究——目次
第12回	共生保障と社会保障改革、自治体制度の機能不全 （『共生保障』）	第28回	個人研究——参考文献
第13回	生活困窮者の自立支援 （『共生保障』）	第29回	個人研究——進捗状況のフォロー
第14回	共生という価値と政治 （『共生保障』）	第30回	個人研究の発表①
第15回	公務員試験、SPIの勉強の仕方	第31回	個人研究の発表②
第16回	レポート（または定期試験）	第32回	レポート（または定期試験）

	ゼミナール名	ゼミナール I (人間科学ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	西巻 丈児 (にしまき じょうじ)		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	「人間」って何? —経済活動をする人間の「知」とは—
ゼミの到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活の中で、何をどのように考えればよいのかという思考の諸問題を、自分自身の身近な問題として考える習慣を身につけることができる。</li> <li>・人間のあり方をみずから考えるという、思考法を身につけることができる。</li> </ul>
ゼミの概要	<p>「自分ってなんだろう?」、「よく生きるためにはどうすればよいのだろうか?」…、結局のところ「人間とはなんだろう?」。あなたもこれに類する事柄を、少なからず考えたことがあるのではないだろうか。実は、このような問いは古代から考えられており、現在までさまざまな答えが提示されてきた。人間の本質を労働と捉え、経済の仕組みが人間のものの見方や考え方を決めていとみなした例もあった。人間には、「真・善・美」という3つのキーワードを用いて、「何を知ることができるのか」、「何をなすべきなのか」、そして「どう感ずるのか」を問うてきた歴史がある。</p> <p>このゼミナール I では、その中でも、「知ること」を中心にして、古代から考えられてきた「人間のあり方」についての思索の道をたどり、「人間の存在」の諸問題を一緒に考えていく。</p>
授業時間外の学習	<p>予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているため、毎回、ポータルサイトで配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくこと。また、研究発表に向けては、かなりの準備時間が必要となる。</p> <p>復習：(1.5時間程度) 毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。</p>
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目か第2回目のゼミナールに必ず出席して、「<u>人間についての観方</u>」に関する<u>自身の問題意識を書くことが第一条件</u>である。そして、履修登録に先立ち、本ゼミナールに<u>参加希望する旨を本教員に直接表明し、面談を受けることが、第二条件</u>である。</li> <li>・講読の授業の際には、該当の頁をあらかじめ読んでおくことが全員に義務づけられる。</li> <li>・本ゼミナールに属する学生は全員、研究発表大会などに出場しなければならない。</li> </ul>
テキスト	特に指定はしない。ポータルサイトにて、毎回事前に配布するプリントが教科書の代わりとなる。また、パワーポイント、映像資料や文字資料も適宜使用する。
参考文献・資料	<p>プラトン『ソクラテスの弁明』岩波文庫 デカルト『方法序説』岩波文庫</p>
成績評価の方法	<p>授業時に毎回提出してもらったリアクションペーパーによる理解度(20%)、発表時の内容(30%)と、定期試験(50%)を総合して、最終的な評価を下す。</p> <p>また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。</p> <p>※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</p>
オフィスアワー	<p>火曜日 10:40~12:10 木曜日 10:40~12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。</p>
成績評価基準	秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)

学 生 へ の メ ッ セ ー ジ	日々の暮らしの中に、自分自身の生き方を考えるさまざまなヒントが隠れている。解決することはできないかもしれないが、考え続けるということはとても大切なことである。一緒に人間の問題について考えていこう。
----------------------	--

授業計画			
第1回	ガイダンスα： ・ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方 ・研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について	第17回	ガイダンス：前期の復習と後期の授業展開
第2回	ガイダンスβ： ゼミ参加者の自己紹介とゼミの進め方	第18回	キリスト教の誕生と展開：信仰と知の分離
第3回	人間とは？：＜私＞は何を知ることができるのか	第19回	近世の自然観：科学革命の誕生
第4回	客観とは？：ありのままの姿を考える	第20回	近世の合理的精神：デカルトのコギト
第5回	無知の知とは？：ソクラテスのフィロソフィア	第21回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会①
第6回	存在の探求とは？(1)：プラトンのイデア論	第22回	レポート完成計画Ⅱ： 研究テーマとその概略の発表会②
第7回	存在の探求とは？(2)：アリストテレスの世界観	第23回	人間のあり方について考える（近世編）： デカルトの著作にみる「私」の発見(1)
第8回	人間のあり方について考える（古代編）： プラトンの著作にみる人間と知(1)	第24回	人間のあり方について考える（近世編）： デカルトの著作にみる「私」の発見(2)
第9回	人間のあり方について考える（古代編）： プラトンの著作にみる人間と知(2)	第25回	人間のあり方について考える（近世編）： デカルトの著作にみる「私」の発見(3)
第10回	人間のあり方について考える（古代編）： プラトンの著作にみる人間と知(3)	第26回	人間のあり方について考える（近世編）： デカルトの著作にみる「私」の発見(4)
第11回	人間のあり方について考える（古代編）： プラトンの著作にみる人間と知(4)	第27回	理性への反省(1)：カントの人間観
第12回	人間のあり方について考える（古代編）： プラトンの著作にみる人間と知(5)	第28回	理性への反省(2)：カントの世界観
第13回	人間のあり方と知に関するディスカッション	第29回	レポート完成計画Ⅲ： 研究発表会①
第14回	レポート完成計画Ⅰ（レポート執筆の準備）： 文献の探し方、文献注記の書き方など	第30回	レポート完成計画Ⅲ： 研究発表会②
第15回	前期のゼミのまとめと夏季休暇中の課題について	第31回	本ゼミナールの総括
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ（表現文化ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	橋元 志保		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	日本やイギリス等の文化・文学を学び、大学生にふさわしい教養を身につけ、多文化世界を生きる基礎力を育成する。
ゼミの到達目標	このゼミナールの単位を良好な成績で修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 世界遺産を中心に日本や海外の文化に触れ、その歴史や特色を説明することができる。 2. 国内外の優れた文学に触れ、その主題や特色を文化的背景も含めて理解することができる。 3. 自然や文化財の保全、文化観光、国内外の文学等をテーマにした研究を行い、論述や口頭で発表することができる。
ゼミの概要	表現文化ゼミナールでは、文学や芸術、世界遺産等を中心に国内外の素晴らしい自然や文化に触れ、大学生にふさわしい教養を深めることを目的とします。また、日本やイギリス等の文学作品を中心に講読を行い、評論や論文を理解できるような読解力・思考力を涵養します。そして、文化観光や自然・文化財保護、異文化理解、国内外の文学等をテーマに論述・プレゼンテーションが行えるような表現力も身につけていきます。なお、将来の進路や採用試験・公務員試験に関するサポートも行っています。
授業時間外の学習	1. ゼミで取り上げる評論や小説を、指定された頁まで必ず読んできてください。また、難解な漢字や語句の意味は必ず調べておきましょう（1時間程度）。 2. プレゼンテーションの練習を行いますので、発表日までに、指定されたテーマによるパワーポイントの作成、及び発表準備を行うこと（3時間以上・発表前のみ）。 3. ゼミで紹介した文学作品やエッセイ、評論等を読むことを推奨します（1～2時間程度）。
履修条件	① 昨年度に「学生生活入門Ⅱ」「文章の読み方」「小論文の書き方」「日本の文学」「福祉と文学」のいずれかの科目を履修し、単位を修得していること。または今年度、上記科目及び「旅と文学」のうち、1科目以上を履修する意欲があること。 ② 前期の履修登録期間中（体験ゼミナール1回目・2回目、もしくは指定された時間）に担当教員と必ず面談し、登録の許可を得ること（事前に面談せず、履修登録だけを行った場合は単位を認定できません）。 ③ 担当教員から連絡があった場合は必ず応答し、ゼミの課題には積極的に取り組み、学則は遵守すること。
テキスト	ポータルサイトに掲載するか、授業時に資料を配布します。また、特に後期はゼミの皆さんの意見を聞きながら、テキストを選んでいきます。
参考文献・資料	授業の中で随時、紹介していきます。君塚直隆『イギリスの歴史』（河出書房新社 2022年） 青木 保『異文化理解』『多文化世界』（岩波新書 2001年・2003年）他
成績評価の方法	【主体的な学びの姿勢（25%）、課題の提出（25%）、定期試験（50%）】の総合評価とします。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜・金曜日 14:40-16:10 ※これ以外の時間は事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)

<p>学 生 へ の メ ッ セ ー ジ</p>	<p>「明日死ぬと思って生きなさい。永遠に生きると思って学びなさい」とは、ガンジーの言葉です。ぜひ一緒に、素晴らしい自然や歴史・文化をめぐる旅に出てみませんか。グローバル化の進む現代においては、よりいっそう多文化共生や個人の文化的背景の尊重が求められています。互いの文化を良く理解し、認め合うことは、平和への第一歩とも言えるのです。</p>
------------------------------	--

授業計画			
第1回	研究倫理教育	第17回	ヨーロッパの歴史・文化と世界遺産
第2回	世界遺産とは何か	第18回	キリスト教と世界遺産
第3回	絶景でめぐる世界遺産の旅	第19回	ルネサンスと大航海時代
第4回	世界遺産とエジプトの歴史・文化	第20回	イギリスの歴史と文化 I
第5回	世界遺産と仏教文化	第21回	イギリスの歴史と文化 II
第6回	アジアにおける世界遺産	第22回	伝統文化と世界遺産
第7回	世界遺産と日本の自然・文化	第23回	文化財の保全と観光振興
第8回	文化観光と文化財の保全問題について	第24回	異文化を理解するには
第9回	文献調査の仕方と文献講読	第25回	多文化世界と宗教・民族の対立
第10回	アカデミック・ライティングの基本スキル	第26回	ジェンダーと多文化共生
第11回	グループディスカッションの方法	第27回	論文を読んでみよう
第12回	パワーポイント作成の技術	第28回	レポート・論文の書き方
第13回	プレゼンテーションの基礎	第29回	プレゼンテーションの技術
第14回	プレゼンテーションの実践 I	第30回	プレゼンテーションの実践 II
第15回	キャリア・プランニング I	第31回	キャリア・プランニング II
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ（日本経済のマクロ分析）		
	ゼミ担当者名	深澤泰郎		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	マクロ経済学の視点から、まず日本経済の全体像を理解する。その大前提となる日本の人口問題について確認するとともに、日本の製造業の劣化についてもその実態を把握する。
ゼミの到達目標	日本経済の問題点を探るために、まずその全体像と実態を把握します。それによって、日本経済の問題点が自分なりに理解できます。また、ビジネスパーソンにとっては必ず必要となる毎日の経済ニュースの理解度が飛躍的に高まります。
ゼミの概要	2年次ということで、基礎知識の確認を中心とするため、輪読と意見発表の展開で進めます。基礎知識を習得するとともに、自ら考える姿勢を自分のものとして下さい。この1年で、自分の研究テーマを探して下さい。受講者の理解度、進行状況等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。
授業時間外の学習	テキストの内容について、最新の経済データを事前に準備すること。 日本経済新聞に目を通すこと。
履修条件	マクロ経済学Ⅰ、生活経済学の単位を取得済みかまたは同時履修すること。以降に、マクロ経済学Ⅱも履修すること。
テキスト	予定 「日本経済入門」野口悠紀雄 講談社現代新書、
参考文献・資料	「野口悠紀雄の経済データ分析講座」ダイヤモンド社 日本経済と財政危機の本質シリーズ3R「日本が抱える大きな重荷！激減する人口と消滅する地方都市」深澤泰郎、 同シリーズ10「劣化する日本の製造業」深澤泰郎、 その他についてはゼミの中でお話しします。
成績評価の方法	輪読と意見発表（70%）、まとめのレポート（30%）
オフィスアワー	火曜日 13:00～14:30 14:40～16:10 金曜日 13:00～14:30 14:40～16:10
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	<p><b>企業の株価と日本経済は別のもので、株価が最高値を付けたとしても、日本の将来については、マクロ経済的には非常に暗い展望しか描けません。</b>その解決策を探るには、まず日本経済の実態を把握して、将来予想を行う必要があります。そのうえで、自分で考える姿勢を習得できれば、就職の際にも、さらに就職後の人生に、「有効なツール」となります。</p> <p><b>国全体は豊かにならない中で、個人として幸福になる道をいっしょに探しましょう。</b></p> <p>※受講者はかならずパソコンを持参すること。資料はポータルサイトに掲示します。また授業でパソコンを使用して、経済データの分析（相関関係等）、グラフ作成を行う場合があります。</p>

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について (研究倫理教育) 教科書紹介 1年間の目標設定	第17回	研究活動における不正行為・不適切な行為の防止について
第2回	不振が続く国内需要	第18回	膨張を続ける医療・介護費
第3回	首都圏のジリ貧に気づかない「地域間格差」論の無意味	第19回	公的年金が人口高齢化で維持不可能になる
第4回	「人口の波」が語る日本の過去半世紀、今後半世紀	第20回	日銀の異次元緩和は事実上の財政ファイナンス
第5回	地方も大都市も等しく襲う「現役世代の減少」と「高齢者の激増」	第21回	第8回～19回までのまとめと討論
第6回	「人口減少は生産性上昇で補える」という誤った思い込み	第22回	レポート作成
第7回	第1回から6回までのまとめと討論	第23回	新しい技術で生産性を高める
第8回	レポート作成	第24回	成長するアメリカと停滞する日本
第9回	経済活動をとらえる経済指標 国民経済計算	第25回	人工知能とビックデータが広げる可能性
第10回	製造業の縮小は不可避	第26回	新しいITサービスが変える市場経済の姿
第11回	製造業就業者は全体のまで縮小	第27回	本格的利用が始まったビットコイン技術
第12回	ピケティの仮説では日本の格差問題は説明できない	第28回	学校教育の問題
第13回	物価の下落は望ましい	第29回	第22回～26回までのまとめと討論
第14回	異次元緩和政策は失敗に終わった	第30回	レポート作成
第15回	深刻な労働力不足が日本経済を直撃する	第31回	年間レポート作成
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナール I (ビジネス・企業ゼミナール)		
	ゼミ担当者名	道端忠孝		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日 1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	ビジネス・企業を多方面から考察して明らかにする。特に、就職先としての企業組織の違いや企業の展開するビジネスの概要が分かるようにする。
ゼミの到達目標	商人としての会社企業や、会社以外の企業の特徴などを理解できること。 将来就職する会社などの企業やビジネスの実体を理解できるようになること。
ゼミの概要	ビジネス・企業を全体的に考察し、特に、商人としての会社企業やビジネスの実体を明らかにしたい。ゼミでは、最終的には、就職で希望する株式会社や、興味ある株式会社等の調査研究をレポート課題として仕上げ、報告をしてもらいます。ゼミの時間には、時折、資格取得の話や、学園祭への参加、ゼミのイベントなどにも触れます。
授業時間外の学習	1、ゼミナール開始前に資料の該当箇所目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1・5時間程度) 2、ゼミナール開始前に復習をし、ノート整理しておいてください。(1・5時間程度) 3、日頃から新聞に目を通し、会社企業やビジネスに関する記事を切り抜き又はメモしておいてください。(0・5時間程度)
履修条件	特にありません。
テキスト	テキストは使用しませんが、六法は用意してください。
参考文献・資料	授業で適宜紹介します。
成績評価の方法	・レポート報告 (60%)・レポート提出(40%) ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14:30～16:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	ビジネスのことや企業のことを理解して就職活動を有利に展開してください。

授業計画			
第1回	ビジネス・企業ゼミガイダンス、自己紹介（将来の目標など）、研究倫理教育	第17回	株式会社の設立－合同会社と対比して－
第2回	金融業、銀行・信用金庫・信用組合はどう違う！	第18回	株式って！株価は！
第3回	貸金業や銀行などとはどう違う。秋田県信用保証協会ってどんなところ。	第19回	新株予約権って！
第4回	保険業、生命保険と損害保険はどう違うの！給与が高いのはなぜ？	第20回	株主総会
第5回	JA 共済や秋田県民共済は保険会社とどう違うの！	第21回	取締役会
第6回	JA やcoop は「組合」とあるが、どういう組織なの？	第22回	監査役・監査役会
第7回	ナイスやマルダイなどのスーパーと生協（coop）はどう違うの！	第23回	監査役会設置会社－イオンリテール(株)－
第8回	ホテル・旅館、国際観光ホテル・旅館はどうちがうの？なぜサービス料10%、消費税10%？	第24回	監査等委員会設置会社－秋田・北都・荘内・山形・青森・みちのく・岩手・東北銀行など
第9回	自動車販売会社にもいろいろ；トヨタ、日産、スバル、マツダ、三菱、ダイハツ、いすゞ	第25回	指名委員会等設置会社－北都銀行・荘内銀行の親会社＝フィデアホールディングス(株)や、イオン(株)
第10回	不動産会社、住宅販売会社、建設業の関係！	第26回	各自の選んだ会社・企業の運営は！
第11回	商工会、商工会議所の実態はどうなっているの！	第27回	北都銀行が合併するって！組織再編って！
第12回	個人企業と会社の違い、会社の種類と違い	第28回	会社分割、株式移転、株式交換のポイント
第13回	株式会社と合同会社の違い	第29回	レポートの作成（私の選らんだ企業）
第14回	1円株式会社って！	第30回	パワーポイントの作成①（私の選らんだ企業）
第15回	株主有限責任というが、本当！社長の連帯保証って！法人格否認って、	第31回	パワーポイントの作成②（私の選らんだ企業）
第16回	定期試験（レポート中間報告）	第32回	定期試験（レポート提出・報告）

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ (マイクロデータ分析・データサイエンス)		
	ゼミ担当者名	森本 敦志		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	1. 経済データ分析に基づく研究を行います。 2. 全国的な論文大会へ出場し、入賞を目指します。 3. 経済学・データサイエンス系の大学院進学や国家公務員試験合格を目指します。
ゼミの到達目標	統計検定「データサイエンス基礎」を全員取得すること。
ゼミの概要	本ゼミでは、グループワークで研究を行います。ISFJなどの全国的なゼミ論文大会へ出場し、入賞を目指します。
授業時間外の学習	自分が関心を持っている分野の研究論文を読んでください。経済学分野の論文は英語で書かれているものが多いので、英語の学習も行ってください。
履修条件	<u>履修を希望する場合は、履修登録に先だって担当教員と面談し、履修の許可を得てください。</u> <u>履修の許可を得ないまま履修登録をしても、単位の修得を認定しません。</u>
テキスト	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
参考文献・資料	各グループの研究テーマに応じて適宜指示します。
成績評価の方法	ゼミおよび関連行事への参加と取り組み姿勢 30%、研究成果の発表と貢献度 50%、定期試験 20%の割合で評価する ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は 試験を受けることができません。
オフィスアワー	木曜日 9:00～10:30
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	研究の基本となる回帰分析や、データの操作について学びます。さらに因果推定に必要な様々な手法(パネルデータ分析、操作変数法、DID等)も学びます。データ分析はPythonを用いて行います。研究はグループワークで行います。他のメンバーと協調しながら研究を行ってください。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究倫理教育と活動方針の説明	第17回	研究計画の策定①
第2回	Pythonによるデータ分析の実習①	第18回	研究計画の策定②
第3回	Pythonによるデータ分析の実習②	第19回	研究計画の策定③
第4回	Pythonによるデータ分析の実習③	第20回	研究計画の策定④
第5回	Pythonによるデータ分析の実習④	第21回	研究論文の執筆①
第6回	Pythonによるデータ分析の実習⑤	第22回	研究論文の執筆②
第7回	実証研究の文献サーベイ①	第23回	研究論文の執筆③
第8回	実証研究の文献サーベイ②	第24回	研究論文の執筆④
第9回	実証研究の文献サーベイ③	第25回	研究論文の執筆⑤
第10回	実証研究の文献サーベイ④	第26回	研究論文の執筆⑥
第11回	実証研究の文献サーベイ⑤	第27回	研究論文の執筆⑦
第12回	実証研究の文献サーベイ⑥	第28回	研究発表①
第13回	実証研究の文献サーベイ⑦	第29回	研究発表②
第14回	実証研究の文献サーベイ⑧	第30回	研究発表③
第15回	実証研究の文献サーベイ⑨	第31回	研究発表④
第16回	定期試験	第32回	定期試験

	ゼミナール名	ゼミナールⅠ（憲法ゼミナール）		
	ゼミ担当者名	渡部 毅		
	科目分類	専門科目群		
	開講年次	2年次	開講期間	通年
	開講時限	水曜日1限	単位数	2単位
	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用		

ゼミのテーマ	憲法問題について関心を持ち、自ら調べ、考える力を身につける。
ゼミの到達目標	日本国憲法の定める統治機構や基本的人権について、その意義・内容を深く理解し、憲法解釈ができるようになる。
ゼミの概要	<p>このゼミでは、「統治機構」や「人権」で学修した内容を復習しつつ、発展的な研究を行っていきます。前期の後半から後期にかけては、主として、判例研究を通じて、多様な角度から憲法を勉強します。また補充的に、問題演習を行います。問題演習では、典型的な事例問題、判例をベースにした問題から、理論的な問題や時事的な問題に至るまで、種々の問題を通して憲法を学んでいきます。受講生には、まず憲法の基礎を再確認してもらい、その上で、具体的な問題において、憲法がどのような役割を果たしているか、また教科書に登場する諸理論が具体的事件の中でどのように使われているか（使われるべきか）の理解を深めてもらいたいと考えています。</p> <p>ゼミでは、各自が担当する判例を割り当てます。担当者は、自分の担当判例について、事実の概要、判決内容、判決の検討を記したレジュメを予め作成し、授業では、それに基づいて報告し、質疑応答するという形式で討論を行っていきます。なお、受講者の人数等により、進め方を変更することもあります。</p>
授業時間外の学習	他の報告者が担当する判例についても、あらかじめ、事実の概要、判旨等を予習する（2時間）。報告後に、ゼミの議論を踏まえて、内容の確認を行う（2時間）などの学習が必要です。
履修条件	このゼミナールの履修者は、「統治機構」および「人権」の履修が必須です。
テキスト	各自が使用している憲法の教科書・判例集
参考文献・資料	定評のある基本書を、適宜、参考にしてください。ゼミにおいても随時、紹介します。
成績評価の方法	レポーターとしての報告内容(40%)、参加態度(40%)、定期試験20% ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日 15:00～16:00 木曜日 15:00～16:00
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生へのメッセージ	憲法の基礎知識を確認・修得し、判例学習をすることで、憲法的思考を伸ばしていきましょう。なお、履修する者は毎回の出席が義務付けられます。また、履修には、毎回合計4時間の学修時間を要します。

授業計画			
第1回	ガイダンス 研究倫理教育	第17回	後期のガイダンス
第2回	報告の仕方・文献の調べ方について	第18回	判例研究報告(4) 法の下の平等 嫡出の有無による法定相続分差別事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第3回	「人権」「統治機構」の復習(1)	第19回	判例研究報告(5) 法の下の平等 国籍法非嫡出子差別規定違憲訴訟の下級審判決・最高裁判決の分析
第4回	「人権」「統治機構」の復習(2)	第20回	判例研究報告(6) 信教の自由と政教分離 剣道拒否事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第5回	「人権」「統治機構」の復習(3)	第21回	判例研究報告(7) 信教の自由と政教分離 津地鎮祭事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第6回	「人権」「統治機構」の復習(4)	第22回	問題演習(3)
第7回	「人権」「統治機構」の復習(5)	第23回	問題演習(4)
第8回	「人権」「統治機構」の復習(6)	第24回	問題演習(5)
第9回	「人権」「統治機構」の復習(7)	第25回	判例研究報告(8) 表現の自由 税関検査事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第10回	判例研究報告(1) 外国人の人権 外国人地方参政権訴訟の下級審判決・最高裁判決の分析	第26回	判例研究報告(9) 営業の自由 薬局距離制限事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第11回	判例研究報告(2) 人権の私人間効力 三菱樹脂事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第27回	判例研究報告(10) 法定手続の保障 成田新法事件の下級審判決・最高裁判決の分析
第12回	判例研究報告(3) プライバシーの権利 早大講演会名簿提出事件の下級審判決・最高裁判決の分析	第28回	問題演習(6)
第13回	問題演習(1)	第29回	問題演習(7)
第14回	問題演習(2)	第30回	問題演習(8)
第15回	前期のまとめ	第31回	まとめ
第16回	定期試験	第32回	定期試験